

## 令和5年度入学式式辞

三寒四温の言葉のとおりに春はやってきます。

寒さと暖かさを繰り返すなか、季節は徐々に、そして確実に変わり、陽ざしは心地よく、柔らかな新芽の緑と花々に彩られるこの季節が巡ってまいりました。

本日ここに、令和五年度静岡県立藤枝西高等学校入学式を挙行できることは、この上ない喜びであり、心から感謝を申し上げます。

ただいま呼名され、入学を許可しました百六十名の生徒の皆さん、御入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんの入学を祝福するとともに、心から歓迎いたします。

本校は、大正七年、組合立志太実科高等女学校として開校以来、地域の女子教育の拠点として、永きにわたり、発展してまいりました。昭和二十七年に、静岡県立藤枝西高等学校と改まり、その後、平成十二年度の男女共学化とともに、現在地に移転した新たな学び舎で、地域の方々にも支えられ、今日に至っております。

皆さんは、本日より、静岡県立藤枝西高等学校の生徒として学んでいくことになります。

本校は、校訓「自律 敬愛」のもと、人格の形成を目指し、

○主体性、協働性を育む多様な学び

○豊かな感性と異文化理解の精神を育むグローバルプログラム

○地域とつながるコミュニティスクール事業

これらを通して地域や国際社会に貢献することができる人材の育成を目指しております。

こうした教育活動は、生徒の健やかな成長に寄与するとともに、藤枝西高校のさらなる発展を目指す取組でもあります。

さて、本日は、今日から藤枝西高校の生徒となる新入生の皆さんに、私から心掛けてほしいことを二つお話しします。

一つ目です。これからの中学生生活において、是非、『美点凝視』の姿勢を持つよう努めてください。『美点凝視』とは、美しい点を凝らして見る、ということです。新入生の皆さんには、クラスの仲間や部活動の先輩、あるいは学校内外の方々に対して、その人の持つ長所である優しさ、勇気、謙虚さ、気品などの徳に、意識的に目を向け、一見、短所と感じるようなことでも視点を変え、魅力と認められるよう、心掛けてほしいと思っています。人は、とかく他人の欠点や自分と異なる嫌な部分が、目に付くものです。朗らかさや積極性、挨拶など、誰もが認める長所だけでなく、深い部分にある魅力を探す努力をしていると、これまで以上に、ポジティブな見方や考え方方が自然に身に付き、前向きなコミュニケーションをとることが出来るようになり、本質を捉える力も備わっていきます。時に、相手の自覚していない長所まで気付いてあげると、お互いの信頼も増していくことでしょう。そういう他者に対する姿勢は、敬愛の精神を育むことになり、親しみの気持ちの醸成にもつながっていきます。

自分と性格や考え方方が全く異なる相手であっても、尊重し、常に良さを発見しようとする姿勢で、敬う気持ちを持つよう、日々の生活の中で、心掛けてください。

高校生活では、同級生、先輩、先生、あるいは地域の方々との関わりなど、様々な教育活動を通じて、皆さんの持っている美しい点に磨きをかけ、さらに潜在的に備えている新たな個性や長所、品性、徳性が、育っていくことを、楽しみにしています。

二つ目です。

三年間で、それぞれの持つ『レジリエンス』を大いに養ってください。レジリエンスとは、日本

語にすると「弾力性」「回復力」「しなやかさ」を表します。本校に入学するまでの、三年間は、日本社会全体が、これまで経験したことのない未曾有の事態により、一人一人に我慢を強いる時間や場面も多かったことから、社会全体の不満も募り、思いやりの精神や助け合いの規範意識すら、少し薄れてしまったようにも感じられます。

当たり前の日常がどれだけ尊いことか、やむを得ない、とは、頭で理解はしながらも、やるせない思いは溢れ、心が折れそうになったこともあったことでしょう。予測困難な時代や想定外の場面を乗り越えていく上では、強い気持ちをもつことは大切ですが、それだけでなく、しなやかな心の安定も必要になります。レジリエンスは、三つの因子で構成され、その三つは、『新奇性の追求』、『感情調整』、『肯定的な未来思考』です。

現状を冷静に捉えて、前向きに歩む力を備えるためには、それぞれの因子が大切となります。構成因子一つ目の『新奇性の追求』ですが、新奇性とは、新しい出来事に対する興味・関心を指します。これまで経験してきた活動や習慣にとらわれず、新たなことに挑戦していこうという気持ちのことです。藤枝西高校では、中学時代とは異なる部活動や行事など、様々な選択肢があります。少しでも興味、関心があることに対して、まずは、一歩踏み出す勇気を持って何事にも積極的に取組んでみてください。

次に『感情調整』ですが、人は、自分にとって嫌なこと・不快なことがあると感情の起伏が激しくなります。感情調整は、「いやだ」「不快だ」「逃げたい」といったマイナス感情の起伏を自らコントロールし、制御・調整して適切に表現する力のことを指します。人は、誰しも様々な感情を持って生きてています。

嬉しい、楽しい、という心地よい感情だけでなく、辛い苦しい時に、どのように自らの気持ちを整えていくかは、誰にとっても大変、難しいことです。西高生活において友と大いに笑い、時にひっそり涙することも大切なことです。そういった経験の繰り返しが、自らの感情調整の成長につながります。一人でどうしようもない時、仲間が困っているときには、寄り添うことが出来る、また、人に頼ることも、実は勇気のいることです。全身全力で、高校時代を謳歌してください。

三つ目の『肯定的な未来指向』ですが、自分にとってポジティブな未来を期待し、その実現のために努力しようとすることです。楽観的に生きるという意味ではなく、夢や目標をベースに実現するためのプランを思い描くことで、精神的な回復を促すことです。

本校における三年間で、学業、部活動に加え、様々な教育活動に積極的に取り組み、レジリエンスを存分に養ってください。

さて、改めまして、本日、御参列いただきました保護者の皆様、お子様の御入学、まことにおめでとうございます。今、ここにいる新入生は、保護者の皆様のおかげをもちまして、まことに晴れがましく、決意に満ちた表情であります。これから過ごす三年間は、順風な時だけでなく、時に、悩み苦しむ時もあるうかと思いますが、私たち教職員一同、お子様が自ら進むべき道を自らの力で切り拓いていくことが出来るよう御家庭と連携して、精一杯、尽くし支援してまいります。御家庭におかれましても、本校の教育方針などについて、御理解、御協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

結びにあたり、本日入学した、新入生百六十名、全ての皆さん、充実した高校生活と、健やかな成長を祈念し、式辞といたします。

令和5年4月6日 静岡県立藤枝西高等学校 校長 竹村 祐